# 受け継がれる京築神楽の心

**今年も神楽が舞われる季節となりました！**
**京築地域には30を超える神楽団体があり、地域全体で「日本一の神楽の里づくり」を掲げ、祈りの文化を受け継いでいます。**
**そこにはどんな知恵や工夫があるのか？神楽団体に聞いてみました。**

## 吉富町 吉富神楽

● 吉富神楽　大人/18名・子ども/5名

▲中島 日出雄さん

神楽好きの若者が集い、平成５年に活動開始。平成11年に旗揚げした新しい神楽講。大切にしている心は、神楽を舞わせていただいているという「感謝の心」。地域や先輩神楽講の方々への「礼節の心」を重んじ、この心を忘れないように若い会員にもしっかりと伝えています。神楽講内の規律と柔和を第一に掲げ、舞の基本を身体に覚えこませるため、年間を通じて練習を積み、神楽を受け継いでゆく土台作りに力を注いでいます。講内での先輩・後輩を意識させ互いの資質向上を目指して、式神楽の重要な配役は年功を重視しますが、練習時には歓談したり、年に一度の親睦旅行や親睦会を行い、大人も子どもも年齢や経験ばかりにこだわらず、風通し良く仲良く活動しています。

## 豊前市 三毛門神楽

● 三毛門神楽講　大人/15名・子ども/30名

▲内丸 典久さん

身近に神楽講を支えて下さる地域の方々や先輩たちに囲まれていることに感謝し、里神楽（神事）を大切にしながら、地域で楽しんでもらえるよう心がけています。子どもたちには、神楽の伝統や意味をちゃんと伝え、上手く舞うことより、一生懸命さが大事！規律と礼儀を守ること！神楽を通じて社会のルールも教えたいと思っています。子どもへ教えることで大人も学び直し、みんなで高め合っています。
天保５年（1834）の銘がある鬼面が伝わる三毛門神楽の精神を受け継ぎながら、若き面打ちとして、内丸さんが彫る新感覚の神楽面は神楽の世界を広げ、新たな伝統を紡いでいます。

## 上毛町 成恒神楽

● 成恒神楽講　大人/17名・子ども/17名

▲岩井 大樹さん

地域の伝統芸能である成恒神楽を子どもたちに継承し、将来の担い手を育てるとともに、心豊かな大人に育ってもらいたいと願い子ども神楽の育成に取り組んでいます。一番大切にしていることは「礼儀作法」。神楽を通して「感謝の気持ち」を育てることです。自分一人の力ではなく、たくさんの支えがあって神楽が舞えることを感じてもらいたい。部活や進学などで普段の練習に参加できない時期がありますが、恒例の年越し神楽では、そんな子どもたちが久しぶり衣裳に身を包み、お面をかぶり嬉しそうに舞う姿は本当に神楽が好きでたまらない気持ちが良くわかります。一度覚えた舞いやお囃子はしっかり一人ひとりに受け継がれています。また皆さんからいただく拍手や歓声が子ども神楽を大きく育てています。

## 行橋市 道場寺神楽

● 道場寺神楽講　大人/7名・子ども/11名

▲進 敏幸さん

地元の公民館で毎週、小・中学生と一緒に、練習を行い、子どもたちの育成に努めています。指導の際は、「練習と遊びのけじめをつけて！気持ちを切り替えて！」と学ぶ基本をしっかりと伝えています。着た衣装は自分で畳むなど自分の行動には責任を持つこと、小さな積み重ねや身近なことから社会の規範も身についていきます。最近は、異世代で一緒に遊ぶことが少なくなっていますが、ここに来れば、中学生が小学生たちのお世話をし、一緒に遊び学ぶことができます。「神楽だけは絶対休まん！」と話す子どもたちを目の前に、思わず顔がほころびます。子どもたちにはこれから大人になっても、ともに遊び、学び地域のつながりを大切に神楽を継承していって欲しいと願うばかりです。

## みやこ町 上伊良原神楽

● 上伊良原神楽保存会　大人/19名・子ども/3名

▲山下 行希さん

「家族の理解と協力、地域の支えがあっての神楽講」と山下行希代表は、熱く語ってくれました。上伊良原神楽は、明治29年(1895)に赤幡神楽(築上町)を進三治さんらが習い受けたことから始まったとされています。今でも進三治さんは『伝説の神楽舞い』と尊敬されています。高度経済成長期の昭和48年には、講員が減り断絶の危機も経験しました。この時、舞い手を地域全体に募り、地域の代表は山越えの寒田神楽(築上町)の応援を得てこの危機を脱し、地域で支える保存会として再出発しました。まさしく、京築地域が山や谷を横断しての人々の結びつき、繋がりの強さをみせた一幕でもありました。神楽は、毎年5月4日の夜、高木神社(みやこ町犀川上伊良原)の神幸祭で奉納されています。

## 築上町 寒田神楽

● 寒田神楽講　大人/18名

▲栗田 徹さん

神楽への思いに動かされ、故郷へUターンした栗田さん。諸事情からしばらく行われていなかった「湯立神楽」を幼なじみの仲間と地域の大祭で奉納することに。「寒田神楽のカタチを崩さずに受け継ぐ」その心を見事に体現しました。「自分の体験でもあるが、幼い頃の神楽体験があれば、いつでも神楽に向き合える。子どもが神楽を見たり、演じたりする場を大切にしていきたい」技と心と場を受け継ぐために講員一同、稽古に集い、人から人へとしか伝えられない舞所作、楽などを確かめ合い、映像で記録して練習に活用しています。産土神である山霊（さんれい）神社の神幸祭をはじめ、地元の行事へ積極的に参加して、親から子へ、地域で神楽文化を受け継いでいこうと力を合わせています。

## 豊の国 京築かるた紀行 ― 国分寺（みやこ町）

# 天平の香りを残す国分寺

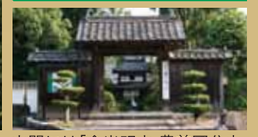
豊前国分寺は、奈良時代に聖武天皇の詔勅で全国68か所に建立された国立寺院のひとつです。当時、国内では疫病がはやり、凶作が続いたため、天皇は国分寺を建立して仏の加護を願ったと伝えられています。

造営には豊前国府の国司が当たり、文化の中心地であった国府の近くに寺地を定めました。豊前国府が政治の中心としての機能を持っているのに対し、国分寺は文教の中心としての役割を果たしています。国分寺の構成は僧寺と尼寺の二院からなり、僧寺は南を正面にした伽藍配置で、創建当時は三重塔ではなく七重の規模であったと推測されています。

戦国時代に大友氏の兵火で伽藍はすべて焼失したと伝えられていますが、江戸時代に小倉藩小笠原氏の支援を受け、塔以外の伽藍がほぼ整備されました。残る三重塔の建立を第十九世住職の宮本孝梁師が発願し、寄付を募り私財を提供して明治28年にようやく完成しました。昭和60年には老朽化が進んだ塔の解体修理を行い、天平文化を漂わす美しい姿によみがえりました。

（レポーター／ヒサノスケ）

[住]みやこ町国府280-1
●問い合わせ　みやこ町歴史民俗博物館
☎0930-33-4666


山門には「金光明山 豊前國分寺」と書かれた表札があります。

## 応援団ひろば

**京築めぐりのリピーターである神崎さんにツアーの感想をお聞しました。**

**京築の豊かな自然や文化、歴史を学ぶ旅に何度も参加していますが、訪問先、配布資料、説明など、本当に内容が濃く、心がこもっており、毎回大満足です。ツアーのお世話をしてくださる方々の温かい人柄もまた魅力です。ありがとうございます。**

## 読者プレゼント

### 「京築神楽ポストカード」特別セット!!

**今秋初お目見えの「京築神楽ポストカード」。なかなか手に入らないこのオリジナルポストカードを、今回に限り特別に3枚セットにして抽選で10名の方にプレゼント。ふるってご応募ください。**

**プレゼントの応募方法**〈応募締め切り/平成28年10月31日（月）必着〉
官製ハガキに**郵便番号・住所・氏名・年齢・連絡先（電話番号）**をご記入の上、ご応募ください。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。（11月10日までに発送予定）
●応募先/京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局（福岡県企画地域振興部広域地域振興課内）
「京築神楽ポストカード」プレゼント係　〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7